

大多喜町第4次総合計画及び第3期総合戦略 策定に向けた団体懇話会報告書

目 次

I 実施概要	1
1 実施目的・計画への反映	1
2 目的と役割	1
3 実施概要	1
II 主な意見	2
1 子育て家庭の主な意見	2
2 商業関係団体の主な意見	3
3 教育関係団体の主な意見	4
4 観光関係団体の主な意見	5
5 農林業関係団体の主な意見	7

令和6年11月
大多喜町

I 実施概要

1 実施目的・計画への反映

大多喜町第3次総合計画・後期基本計画の策定においては、専門家や行政職員だけでなく、まちづくりの基本理念「みんなが主役」の考え方のもと住民が参加・参画を図るために、団体懇話会、ワークショップ形式による住民公聴会などを実施しました。

第4次総合計画においても、引き続き住民参加・参画を図るとともに、第3次総合計画の住民目線での成果・課題を把握し、計画策定へと生かしていくために、総合計画における分野とリンクした団体懇話会を開催します。

団体懇話会の開催で、大多喜町の課題を自ら考えて理解と意識を高め、参加者がまちづくりの参画者になっていくことをねらいとするものです。

なお、この団体懇話会の内容は、第3期総合戦略策定にも生かしていきます。

2 目的と役割

- 第4次総合計画の策定に向けて、第3次総合計画及び後期基本計画を各種団体の目線で振り返ります。
- 分野ごとの課題や各種団体の目線での課題解決に向けたアイデアを把握することで、今後の施策の検討へと活用します。
- ご意見は、分野ごとに「現状・課題」「アイデア」として取りまとめ、庁内へのご報告します。

2 実施概要

5分野で各1回・90分程度で実施します。

対象	実施年月日
子育て家庭	令和6年10月7日
商業関係団体	令和6年10月9日
教育関係団体	令和6年10月15日
観光関係団体	令和6年10月17日
農林業関係団体	令和6年10月18日

Ⅱ 主な意見

1 子育て家庭の主な意見

【保育園園長のご意見】

- みつば保育園は、現在98名で開園当初の200名近くから半分程度になっている。
- 子供たちが本当に町の宝で、これから町を支えて大きくなっていくために、大多喜がとても好きとか、大多喜にまた帰ってきたいという、思い出を作ってあげたい。
- 保育園では、他町ではやっていない園外保育とか、自然環境認証制度というのが千葉県にできたので、認証を取得した。それで海から山から川から、自然に触れて子供って一番、幼児期にいろいろなことを体験するのが大切だと思うので、1人1人を大切に、いろいろな経験をしてもらえるようにしている。
- 他町村も完全給食になってきているので、大多喜町も検討をしている。
- 保護者の意見を聞き、子供たち第一主義でやっていきたい。
- つぐみの森保育園は環境がとても良く、すぐ周りに自然が多くある。
- つぐみの森保育園は60人いたのが50人になり、コロナ明けには30人台になっており、各学年10人いない状況で、学年で何かをするが少し難しくなっている。
- 同じ学年の子と何かをやるということがなかなか難しく、今年からみつば保育園と一緒に園外などに行くようにしている。

【保育園保護者のご意見】

- 1歳児は8人ぐらい連れて、先生がお散歩に連れていく。上の子たちはいつもバスで園外保育に行っているのを見て、本当によい保育園と思っている
- アプリが活用されていないので、できる範囲で活用してほしい。
- 上の子が2歳の時に大多喜町に引っ越し、それまでは東京に住んでいた。環境がもともとよいのは知っていたが、先生たちがこんなにしっかりと子供たちを見てくれて、さらにやる事が本当バラエティに富んでいるのでも、むしろこっちに引っ越してきて良かった。
- いすみ市の知り合いの話を聞いても、やっぱり大多喜町の保育園の活動が「すごくいいらしいね」みたいな、「私たちがやっていないことをやっているみたいだね」という話もあるが、ただそれが周りの人たちも、そんなに知らないのかと思う。
- 願いは人数のキープ、ないしアップである。
- 他の市町村の子たちと何か交流する機会とか、海外なのか、自分たちとは全然違うような人たちと関わるような機会がもっとあるとよい。
- 海から山から、あと今度ポートタワーに行くということで、この周辺どこか、もう千葉県の市のほうにもいろいろと園外保育を行い、子供も非常に楽しんでいる。
- 出産一時金とかランドセルの助成とかあると助かる。
- フィッシングパーク、県民の森などを使えるようにしてほしい。

- 学童に入っていない子でも一時的に預けられる場所が欲しい。
- 他の保育園どうして友達の輪が広がっているのが非常によい。
- 図書館とか小学校の図書室とかで、もう少し本の種類を増やしてほしい。
- 室内で遊べるところとか、町中で気軽に行ける子どもたちが多いエリアに何かあるとありがたい。
- 奨学金を町が出資して、それで U ターンしてもらおうとよい。
- 夏休み中の学童の料金の検討や昼食について検討してほしい。
- PTA の役員について、負担になるので、検討してほしい。

2 商業関係団体の主な意見

- 百年以上にわたってやってきた商人が、後継者の問題とか、いろいろな状況で辞めざるを得ない、もしくは断念せざるを得ないというようなことが結構起こっている。また、最近の急激な社会の流れで、キャッシュレスも IT も、そこについていけないというのも実際に結構出ている。
- 後継者を探せばいいという言い方もされると思うが、なかなか後継、家を継ぐだけのものがあるかということである。あるかという言い方はおかしいが、やはりお金とかの話になってしまおうと思う。
- 去年、大多喜高校で33人のクラスの中で、帰ってきて就職したい人はと聞いたところ、33人の中の女の子が1人だけ手を挙げて、それ以外は誰も手を挙げなかった。もう少しいろいろな子供たちの意見が本当に聞けるのかというのが知りたい。
- 雇用は要望しても集まらない。この町と一緒に高齢化がだいぶ進んでおり、個人の事業所が多いから、どんどん事業所がなくなってしまう可能性がある。
- 旧大多喜の街並みの中を見ても、空き店舗、空き地がどんどん増えている。土地がうまく流動化して、また移住されて事業を始めて商工会の会員になる方も、コロナ以降は少し増えているので、商売にチャレンジができるような店舗があるとよい。
- 人手不足と高齢化で新たな担い手がいらない。そして採用をかけたくても人が集まらない。職業の魅力というものをしっかりと商工会としては職業ごとに魅力を発信していくことが必要である。
- 私の会社は360、370名の社員、パートとか含めると従業員がいる。この千葉の大多喜の代理工場も、180から200ぐらいいる。実は大多喜に住所を持つ人は20%ぐらいである。
- 町の方針として、観光だけなのか、企業誘致も続けるのか、その辺の舵取りの問題も少しはある。
- 役場としてこれだけ働くところがあるということは PR していった方がよい。
- 商店街は、後継者問題と空き家対策である。大多喜にお客様が観光などできて、またもう一度来たいというようなところがあるかと言えば、難しい。

- 地域地域にそれなりのメインとなるようなスポットをもっと作ってほしい。
- 地域通貨が非常に役に立っている。いすみ市、勝浦市など、近隣の人も地域通貨を使えるということを最近知って地域通貨を作りきて、使ってくれている。その中でもう少し地元のお店のほうに還元率が多くなったらよい。また、大多喜町民だとよりポイントが付くのなら、大多喜町民になりたいという意識が働くのではないかな。
- 養老溪谷商店街は市原市にまたがる。そうすると市原市の養老溪谷観光協会も関わり、その中で現状として市原市の観光協会のほうの養老溪谷駅前の観光案内所が今機能していない状況で、町としてプッシュしてほしい。
- 商店街というのはあくまでも古い名前だと思う。現状は、昔やっていた小さなお店がどんどんなくなり、シャッターが下りている状態である。そういう面で老川地区沿道整備振興会とでも変えたほうがよい。
- 房総の小江戸大多喜をつくる会を作った時に初めに打ち出したのが電柱の地中化である。
- 50年先のこういう夢に向かって、今年はできる範囲のこういうところをやっていくという具体的な策を明確に示していきたい。
- 大多喜町の古い町並を残すことが大多喜町の活性化に繋がるのだという明確なビジョンを作っていたきたい。
- 町民の清掃の日だとか、町を美化するというような形で、大多喜町に来ればどこに行っても綺麗だよというようになれば良い。
- オリブの現状は非常に厳しい。1つは後継者問題である。辞めた時に空き店舗を埋めることが非常に難しい。今は空き店舗がない状況にはなっているが、組合でやっている子会社が全部穴埋めをしている状況である。
- 昨年に線状降水帯が発生して床上浸水になっているが、今後同じような雨が降った時に、それに対して対策はできているのか、オリブとしては、対策は取ったが、町の方はどうか。

3 教育関係団体の主な意見

- 先端技術のいろいろな技術に触れるところが、やはり都市部に比べると少ない。
- 地区にいる20代の女性、都市部にいる女性に街頭インタビューして、どういうことがあったら、こういう場所に来てくれるということを聞き、場所を確保した結果、定着したという自治体の記事があった。そういうことも考えてほしい。
- 地区などで神楽や太鼓、ダンスなどを繋げていってほしい。
- B&G はグラウンドや野球場のナイター設備など、スポーツ設備を充実するとよい。
- 学習塾やそろばん塾などがあるとよい。
- 大多喜お城祭りを見て、みんなが楽しむことができる、そういう機会があるというのは素晴らしい。
- 本来遊び場だったはず自然環境が、ちゃんと整備されてたはずの自然がなくなってしまうって

いる。それが大多喜のよさというか、私も子供を持って子供とそういう遊びがしたいと思って来たのに、そこが楽しい場所ではなくて、危ない場所ではないが、気軽に遊びに行けない場所になってしまっている。

- 知らない間に消えていってしまっている大多喜の文化がおそらく非常に多くあるのではないかな。
- 若い人の定住、あとはまた戻ってくるとなった時に、大多喜町は、長男長女の家はあると思うが、次男とか妹とか2人目、3人目の住む家が比較的少ない。
- 三育学院は、中等教育学校という6年間の学校に変わるところである。
- 最近非常に困ったことは、夏がとにかく暑くなって体育館などでの活動に困ることである。
- 三育学院中等教育学校は6年間続けて大多喜町でということで、いろいろな経験を地域の人と一緒にやり始めた。
- 町の英語教育のために協力していきたい。
- 学校が中学校から中等教育学校の6年制になる中で教職員が増えてきたが、家が足りない。キャンパス内の家が足りなくて、ALT の先生がたはむしろ町に出て、プライベートレッスンなどをやっていた。住み込みでイングリッシュハウスみたいな形で町に住んでいくということをお願いしたい。そしてイングリッシュカフェであるとか、そういう形で大多喜で子育てしたら英語ができるようになるよというようにしたい。
- 20代の頃は草野球チームが23チームあったが、今は3チームである。
- スポーツ設備の拡充を計画に入れていただきたい。
- 順天堂など外部の協力の繋がりが維持できるか危惧される。
- シティプロモーションとか、町内外に対してどれだけ発信、アピールできるかというのが非常に重要になってくる。
- 大多喜高校では、中学生への学習会を始めたので、高校が持っている人的資源を有効活用していきたい。また、様々な部活動による保育所・小学校・中学校との連携した教育活動の推進を今後も進めていきたい。

4 観光関係団体の主な意見

- 養老溪谷の遊歩道が一昨年の大雨で全然直っていない。これから先、例えば遊歩道に関しただけではなく、もっと町と情報の交換もしっかり綿密にやっていかないと、説明するのになかなか明確な答えが客に出せない。担当をつけてもらいたい。
- 人がいないと商売も、町会長もやり、町会の行事すらこの形、この何年後かに消滅して町会として大丈夫なのかなと思う。
- 高校を出た子供たちがみんな出て行く。何が原因かという、やはり働くところがない。
- 旅館商売をやっている人も人が確保できないので、店をフルに開けられないとか、今雇用に関してもだんだん労働時間の問題とか厳しい状況になっている。

- 新しい産業が入ってきてやるというのは少し難しいので、今商売をやっている人たちの稼ぐ力というのは私たちは上げていかなければいけない。そういう部分では人も補充しなければいけない。
- 若手を田舎のほうに誘致するのは難しいので、50後半とか70とか、そういう眠っている労働者たちを掘り起こして働くように仕向ける。
- スポットで入れる、土日だけならできますという、働きたい人や、土日しか雇ってあげられませんかという雇いたい人、そういうホームページを作っていただきたい。
- 人数が3人、4人でお店をやっているが、本当に忙しい時間は1時間、2時間なのです。そういう時には今はスマホで少しあいた時間にアルバイトをという、ああいうものを例えば役場でやっていただきたい。
- 高齢の人は知識が豊富なのだろうから、豊富なうちに若い人との会合が必要である。
- 小学生とか、中学生に大多喜町の仕事とか、商売とか、社会科見学とか社会科勉強のといって、1日少し見たぐらいで、それで終わりではなく、もっと多くした方が良い。
- 町で人を集めるイベントを多くやったほうがよいが、それには会場はないからできないという連絡がやってくるので、人を集められない。
- 大多喜町の観光情報の一元化が必要である。今はどこのサイトを見たら観光情報がきちんと載っているかというのが分りにくいところである。
- 事業としてロケーションサービスでは新しく観光とか旅行の仕事をしていきたい。始める段階で少し補助を付けていただきたい。
- これから教育旅行、インバウンドというのを大多喜町で受け入れていけたら、もう少し観光がステップアップするのではないか。そのためにはベースづくりの協力が必要である。
- 大多喜町の PR をできる機会を増やしてほしい。物産展とか、何とかなの祭りみたいな、外でやるものとか、そういうところに参加できる機会を呼びかけていただきたい。
- 人口を観光で増やす時に、小湊鉄道といすみ鉄道の利用者というのを増やさないとけない。
- 新しいものを作るより、もう今あるものをもう1回考えてみたら、商い資料館なども本当によい建物だし、雰囲気もよいし、もったいない。見るところはないですかと言われるから、今お城もこういうわけでと言うと、他にないかと言われる。
- お城と溪谷が本当に大きい、他にはないものだと思う。加えて小湊鉄道、いすみ鉄道は非常に強力なマグネット、人を引き寄せるものだと思う。そこに付随した事業者を絡めた企画というのをやっていきたい。
- 廃校1校を観光の大多喜ベースにして、そこでお土産を買えとか、いろいろな体験ができるようにする。
- 甲冑手作り教室を開いて、その具材費に少し補助金を出して、1年間かある程度通ってもらって、自分の手作り甲冑でお城まつりに参加してもらおう。
- 大多喜にお墓を作って、お墓の団地みたいなものを作ってはどうか。

- 高級老人ホームみたいな大きめなところの誘致をして、墓地が整備されているというのはどうか。

5 農林業関係団体

- 猟友会としては、今第一種の鉄砲の人が入ってこなくて年齢が高い。わなの人はだいぶ入ってきているが、全部で合わせて52人ぐらいである。その中で銃のほうが高齢化になってしまい、動物、鳥獣がかなり多くなってきているので、なかなかはかどらない。専門者がいないので、なかなか難しいところはある。
- 野菜をメインに作っているが、高齢化と後継者不足が一番問題点になっている。
- 作物がこんなに温暖化になってしまうと、去年、今年とかなり変わってしまった。
- 田んぼの乾田化ということで進めてほしい。田んぼは米を作るには問題ないが、あまりにも水はけが悪すぎるということで、暗渠排水を取り入れていかなければ野菜、果樹とかそういうのは作れない。農地、田んぼを使つての野菜、果樹とか農産物の生産ということを考えてもらいたい。
- 山の利用というのも町のほうでやってくれたらよい。
- 大多喜で雇用というか、人の働き場があるような、できるような、そういう場を作ってもらいたい。
- 町としても今、水田の畑地化に思い切って舵を切っていこうということで、今回トライする。今水田でできるような作物で何かがないかということで、WHO のほうで今世界的な食糧危機が問題になっているが、ウチワサボテンというサボテンが今後の食糧危機には非常に有意義だろうということがある。
- しいたけもいろいろと歴史があり、始めた時は非常に良かったが、中国産で非常に値段が落ちて、また最近では福島放射能問題で原木が全部やられてしまったので、全国から原木が届くので、いろいろな木が来る。非常にしいたけを生産するのが難しい中でやっている。20年ぐらい前までは相当いたが今は4、5人しかいない。
- ブルーベリーは順調に今のところは動いている。ローゼルは非常に販売するのが難しい。今年はやってみたがキョンにみんな食べられてしまい今年は収穫がなしであった。
- 大多喜は竹が多いから、最近生で売るのはもちろんよく売れているからよいが、大きくなってしまったものはメンマにするとよい。
- メンマも実は、普通の真竹なので、孟宗竹では駄目である。本当は駄目だが、時間をかければ大丈夫ということである。
- 間伐をやっているが、実際、人間では、10センチの生木を倒して自由にならず、にっちもさっちもいなくなる。機械を使うしかない。機械を使うといっても道が全然ない。作業路がない。最初は作業路を作つて機械が入るような環境整えてからである。
- 会所はおそらく大多喜で一番獣の害が多く、獣のほうの人よりも多いような地域であり、人

がないから空いている農地が増えていて、獣が増えていく原因にもなっている。

- 田んぼをやっている中で一番の問題は、機械が高すぎる。支援があるとありがたい。
- トマトを栽培しているが困っているのは従業員が少ないことである。農業に限らず、どんな産業も町内でおそらく雇用するのが難しい状況になっている。その中でシルバーをお願いしているが、シルバーも少なく、登録される人が少ない。周知をして、町内の農業に手伝いできる人を募集するなどということはできるのかなと思う。
- 移住されてくる人で職がない人に、まず町内で、もし可能であれば農業分野で働いてみませんかというのを移住とともに、そういうことでもしてもらえたらよい。
- 農業と観光とかセットでできないかというところもあり、最近だと「おてつたび」という、働くことと旅をセットにしたサイトがあります。農業分野で働きながら旅をしたい人は多くいるという話もある。
- 今年の夏は少しインターンの話があったが、宿泊するところがないので、簡易宿泊ができるところがあればよい。
- 人手が足りないということは働くところがあるということであるが、皆さんに聞くと、働くところがないということで、ミスマッチがある。
- 「粒すけ」というお米があるが、かなりよい評価をいただき、非常に美味しいお米である。大多喜の「粒すけ」を売りにして、町のほうにも推してもらいたい
- 米農家にとってやはり機械が問題である。国とか県の補助金は中途半端な面積の人たちの対象というのがあまりない。
- 前は花組合があって、その中で一生懸命作っていたが、組合解体でそういうものもなくなってしまって、今またお花をもう少しやりたいとか、いろいろな情報を欲しいと思っても、そういう組合がなくなってしまっている。
- ローゼルを今年で2年目でやっているが、まずローゼルの片付けというのが非常に大変である。枯らして集めて燃やしてやったが、できたら町でも持っている竹を粉碎する粉碎機とかを借りられればと思う。
- タケノコもそうだが、今度はローゼルも作る。町でしっかりやってもらって、ブランド化のほうを進めてほしい。
- 法人で委託事業に関しての補助金がかかり出ている。個人だと厳しいので、それも町のほうで考えてもらいたい。